



山形県感染症発生動向調査

平成28年第16週(4月18日～4月24日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
 TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
 URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
 2016年4月26日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少

※ :警報レベル

 :注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県)
	第15週	第15週	第16週	増減	第15週	第16週	増減	第15週	第16週	増減	第15週	第16週	増減	第15週	第16週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	25007 5.06	509 10.83	454 9.46	▼	212 10.60	216 10.80	▲	46 9.20	28 5.60	▼	148 14.80	135 13.50	▼	103 8.58	75 5.77	▼	13322
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	633 0.2	1 0.03	1 0.03								1 0.17	1 0.17					39
咽頭結膜熱	841 0.27	11 0.38	14 0.47	▲	5 0.38	9 0.69	▲	1 0.33	1 0.33		5 0.83	2 0.33	▼		2 0.25	▲	193
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	7238 2.3	174 6.00	186 6.20	▲	115 8.85	120 9.23	▲	6 2.00	7 2.33	▲	34 5.67	36 6.00	▲	19 2.71	23 2.88	▲	3136
感染性胃腸炎	18257 5.79	167 5.76	181 6.03	▲	61 4.69	79 6.08	▲	11 3.67	8 2.67	▼	49 8.17	47 7.83	▼	46 6.57	47 5.88	▼	3918
水痘	945 0.3	2 0.07	2 0.07		1 0.08	2 0.15	▲							1 0.14		▼	208
手足口病	107 0.03																11
伝染性紅斑	1155 0.37	43 1.48	40 1.33	▼	14 1.08	11 0.85	▼	1 0.33	3 1.00	▲	5 0.83	5 0.83		23 3.29	21 2.83	▼	1018
突発性発しん	1502 0.48	13 0.45	35 1.17	▲	5 0.38	8 0.62	▲				4 0.67	16 2.67	▲	4 0.57	11 1.38	▲	297
百日咳	48 0.02		3 0.10	▲		2 0.15	▲					1 0.17	▲				6
ヘルパンギーナ	116 0.04																
流行性耳下腺炎	2589 0.82	97 3.34	48 1.60	▼		4 0.31	▲	6 2.00	6 2.00		76 12.67	35 5.83	▼	15 2.14	3 0.38	▼	976
眼科定点 (定点医療機関数)		(8)			(4)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	6 0.01																
流行性角結膜炎	381 0.55	1 0.13	1 0.13			1 0.25	▲	1 1.00		▼							13
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	340 0.72	1 0.10		▼	1 0.25		▼										6
クラミジア肺炎	6 0.01																4
マイコプラズマ肺炎	144 0.31	2 0.20		▼	1 0.25		▼							1 0.33		▼	37
細菌性髄膜炎	8 0.02		1 0.10	▲											1 0.33	▲	1
無菌性髄膜炎	20 0.04																4

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1		2	1	
A型肝炎	患者			1		
侵襲性肺炎球菌感染症	患者				1	肺炎球菌ワクチン接種歴:不明

<通信欄>

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

<定点把握感染症 報告患者数 年齢別>

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ		9	10	17	25	34	56	39	30	39	24	78	26	7	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79	80歳～									合計
	20	16	6	11	2	5									454
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症			1												1
咽頭結膜熱		1	7	3	2							1			14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			6	14	25	36	28	21	18	5	8	15	5	5	186
感染性胃腸炎	2	24	24	21	22	17	16	15	4	9	8	14	2	3	181
水痘					2										2
手足口病															
伝染性紅斑				3	3	7	12	7	1	3	3	1			40
突発性発しん		18	16	1											35
百日咳			1	1										1	3
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎			1	3	10	9	4	4	7	4	2	3		1	48

<平成28年3月 月報>

2016年4月19日 更新

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～3月	
	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	20	18	4	4	11	14	3		2		55
	定点当り	2.00	1.80	1.00	1.00	11.00	14.00	1.50		0.67		
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	2	6		3		2	2	1			12
	定点当り	0.20	0.60		0.75		2.00	1.00	0.50			
尖圭コンジローマ	報告数	2	7		2	1		1	2		3	11
	定点当り	0.20	0.70		0.50	1.00		0.50	1.00		1.00	
淋菌感染症	報告数	1	2	1	1						1	4
	定点当り	0.10	0.20	0.25	0.25						0.33	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	4	5	1	1	1	1			2	3	18
	定点当り	0.40	0.50	0.25	0.25	1.00	1.00			0.67	1.00	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	14	27	9	6	1	1	1	3	3	17	62
	定点当り	1.40	2.70	2.25	1.50	1.00	1.00	0.50	1.50	1.00	5.67	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

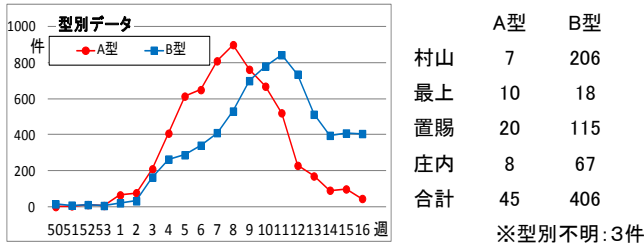
<トピックス>

【インフルエンザ情報】

インフルエンザの第16週の県全体の定点当たり報告数は9.5人で、警報レベルの終息基準値を下回りました。村山地区と置賜地区の警報レベルは継続中です。

(警報開始基準値:30人 警報終息基準値:10人 注意報基準値:10人)

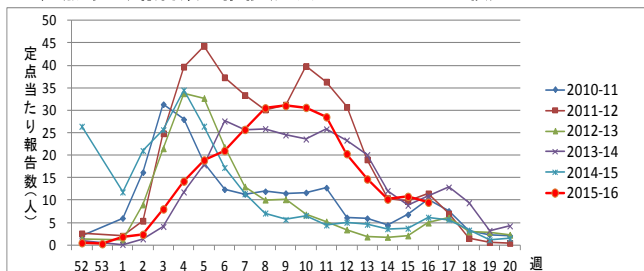
1 迅速診断キットによるインフルエンザウイルスの陽性件数(第16週)



2 集団発生状況 (県健康福祉企画課まとめ 第16週)

- 村山地区:5施設(保育所1、小学校1、中学校1、高校2)
- 置賜地区:4施設(保育所2、小学校1、高校1)
- 庄内地区:2施設(小学校1、障がい者支援施設1)

3 定点あたり報告数の推移(過去5シーズンとの比較)



【流行性耳下腺炎】

流行性耳下腺炎の定点当たり報告数が、置賜地区で第10週から継続して警報レベルで推移しています。

・流行性耳下腺炎
警報開始基準値:6人 警報終息基準値:2人
注意報基準値:3人
・第16週定点当たり報告数
村山:0.3人 最上:2.0人 置賜:5.8人 庄内:0.4人

流行性耳下腺炎とは

片側あるいは両側の唾液腺(あご周辺)の腫れを特徴とするウイルス感染症で、おたふくかぜとも呼ばれています。

【症状】

基本的には軽症で済みます。2～3週間の潜伏期(平均18日前後)を経て、唾液腺の腫脹・圧痛、嚥下痛、発熱を主症状として発症し、通常1～2週間で軽快します。まれに髄膜炎、髄膜脳炎、睾丸炎、卵巣炎、難聴などの合併症を認める場合があります。

【予防法】

流行性耳下腺炎は接触あるいは飛沫感染で伝播しますが、その感染力はかなり強いです。また、感染しても症状が現れない不顕性感染もかなりみられます。効果的に予防するにはワクチンが唯一の方法であり、接種者の罹患率は1～3%であったとの報告があります。

※参考URL: IDWR 感染症の話 流行性耳下腺炎(ムンプス、おたふくかぜ)
http://idsc.nih.gov/jp/idwr/kansen/k03/k03_35.html